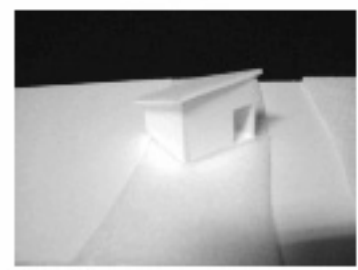
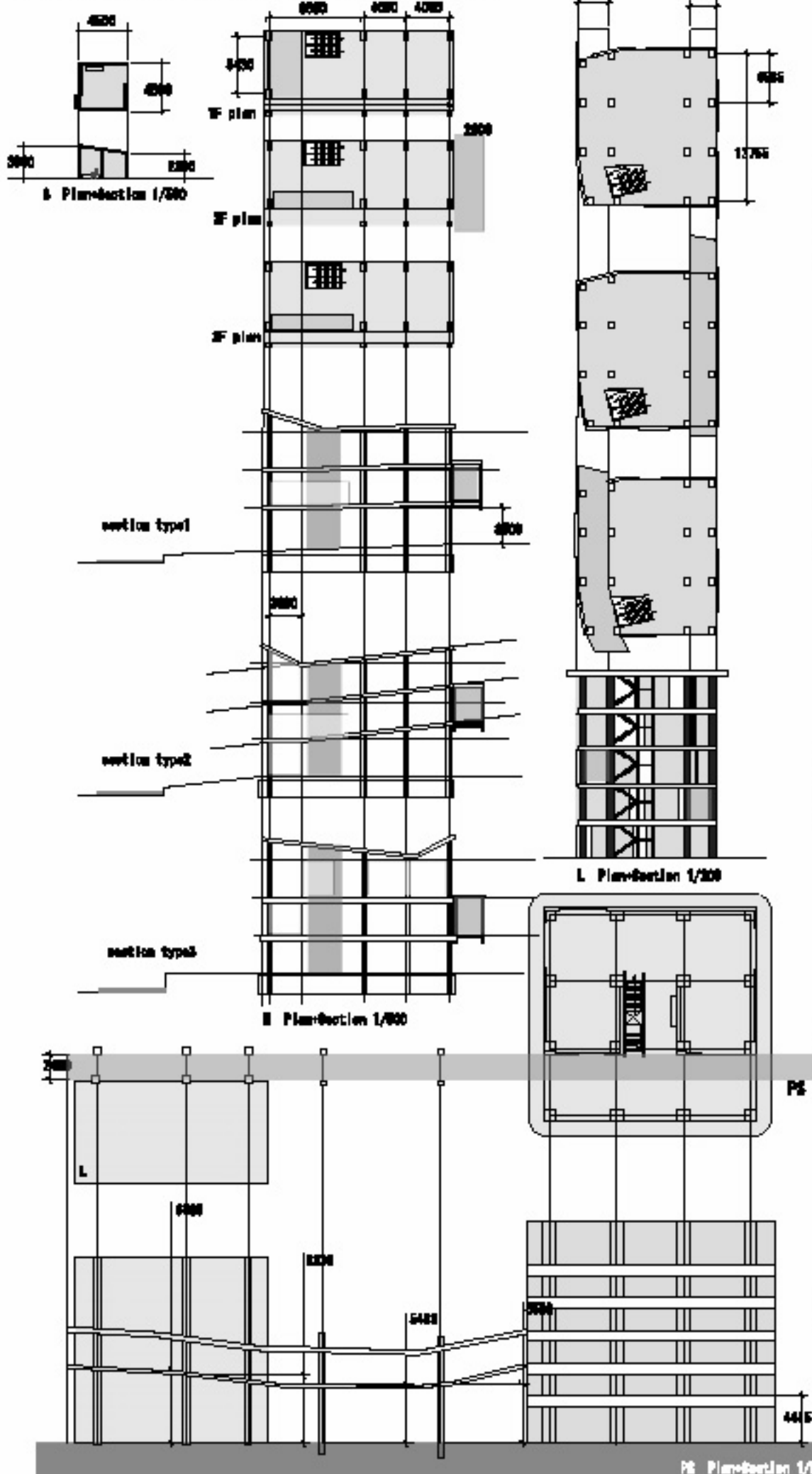


# Architecture Type

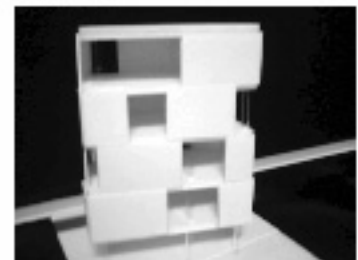
空間は川はまわりに対し、立体的に誕生してゆく。そして計画や条件をつくり出していく。それは自然においてだけでなく、都市ではスケールの違う要素ごとに展開され、川とそのまわりの関係性が映かれる。また、それらが立体的なつながりによりつながらざるを得ない関係性はさらに深まる。



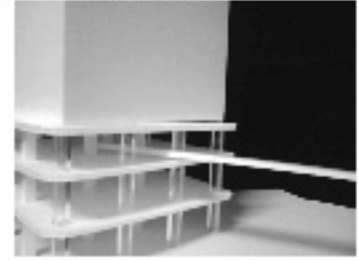
**5 東屋**  
最も小さなスケールの東屋は、個室と川の間に準常空間に増している。川の周りの歩行者空間をバスとともにゆるやかな分断し設備をつくる。また、ポケットパークや園子に対してのアイストップともなる。



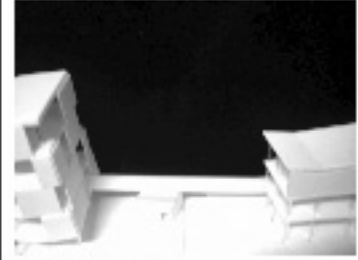
**P1 Residence+Mini Office+Shop**  
住宅機能の増設は、河川と道路のつくるアンジュレーションを垂直方向に開拓しつくられる。ゆるやかな断面が連続的に流れを生む。



**L Office+School+Shop**  
商業的なバスが設けられたオフィス機能の増設は、商業を外部からも取り込むような意味で、これは河川の歩行者空間と連続させないよう工夫される。



**XL 超高層**  
2層、3層にはバスが設けられ、その周りは有に開放される。バスの出入りにより階層はコンバージョンされた層の要素の一つとして位置づけられる。



**P5 立体階梯**  
階段を昇降するもの、傾斜するものがあり、階層は連続的土土、傾斜は川と道路を開ける。